

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第9号（通算70号）
令和2年1月24日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



1月10日（金）

大浦小学校 書初め
琴の音色が BGM で流れる中、皆が心を落ち着けて筆を走らせていました。

特別支援教育の推進は関わる人を幸せにする

小中一貫教育推進課 指導主事 生方清司

今年度、三条市では年長児から中学3年生（9年生）まで 200 ケースを超える就学相談を行ってきました。現段階で、そのほとんどが就学先について合意が図られました。就学相談員、特別支援教育コーディネーター、管理職並びに担任の皆様から、丁寧な相談をしていただき感謝を申し上げます。

三条市では、就学先決定の仕組みを変更して2年目となります。保護者、在籍が想定される学校、特別支援教育の専門家である就学相談員（または特別支援教育コーディネーター）の三者で相談をし、互いの情報を共有し、児童・生徒の実態把握のもと、保護者の意向を踏まえつつ、よりよい就学先について合意形成を図っていきます。その内容に疑義がなければ、合意内容をもって教育委員会が就学先を決定しています。また、保護者が就学先決定について就学支援審議会の助言を望む場合には、就学支援審議会で審議をし、その結果を教育委員会が保護者に伝え、就学先決定の判断材料としています。就学支援審議会での審議を希望されたのは、昨年度3ケース、今年度1ケースでした。一つ一つ時間をかけ、十分な審議を尽くすことができます。また、各学校で丁寧に相談対応しているからこそ、専門家の助言を求めなくても就学先が決定できていると推測しています。特別支援教育を着実に推進していることを感じます。

特別支援教育を推進することは、該当の児童・生徒やその家族を幸せにすると私は考えています。できることが増え、認められ、褒められ、成長が確認できます。うれしいことです。子どもも家族も幸せを感じることができます。その姿を見て、関わる教職員も幸せを感じることができます。

さて、就学先の決定がゴールではありません。合理的配慮の提供をはじめ目標設定や支援方法など、必要に応じ変更していくことによって、日々、一人一人の教育的ニーズに合った指導・支援を行うことができます。さらに特別支援教育を推進していきましょう。

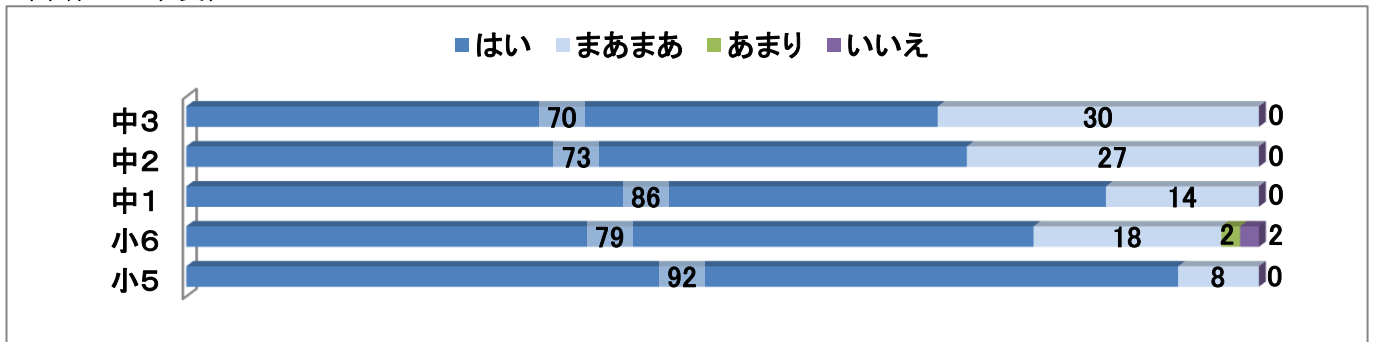
満足度アップ 学びのマルシェ

さんじょう一番星育成事業「さんじょう学びのマルシェ」も、今年で6年目に入りました。週末には、自己の課題の克服に向けて一生懸命に学習に取り組む児童・生徒の姿があります。10月末に行ったアンケート結果から、児童・生徒の満足度が大きく向上していることが伺われます。

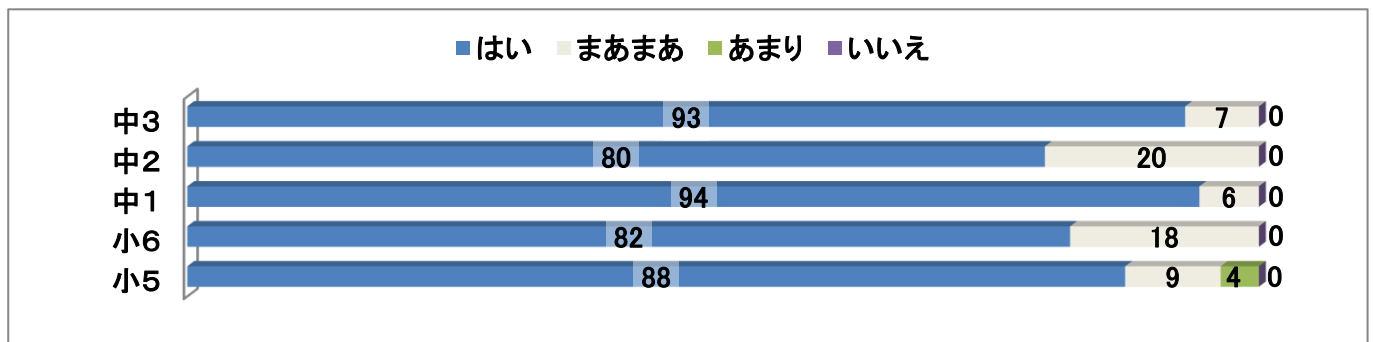
以下は、今年度と平成29年度のアンケート結果を比較したものです。

問5 学びのマルシェに参加して、あなたはよかったですか。

(平成29年度)



(令和元年度)



2年前は、学年が上がるにしたがって児童・生徒の満足度が減少していました。今年度は、どの学年も80%以上の満足度を示しています。とりわけ、中3、中1の満足度が高いことが特徴的です。満足度がアップした理由としては、少人数指導の中で児童・生徒が分かるまで学習を進める指導体制が大きく影響していると思います。児童・生徒の感想でも、「英語をとても分かりやすい視点で教えてくれる。」「一人一人にしっかり教えてくれ、理解しやすい。」「先生が分かりやすく教えてくれるし、ちゃんと理解できる。」など、分かりやすいという声がたくさんあります。「マルシェは楽しい。」「先生方がすごく面白くて、すごく楽しい。」「英語や数学の問題がすらすらできる。」など、学習の楽しさや自身の成長を実感できている児童・生徒もたくさんいます。こうした児童・生徒の姿や声に励まされ、指導員も充実感をもって指導に当たっています。学校でも、児童・生徒への励ましや賞賛をしていただくと幸いです。



【英語学習に励む生徒】



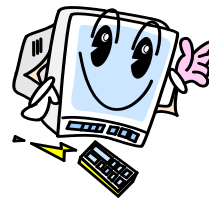
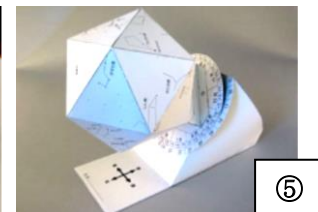
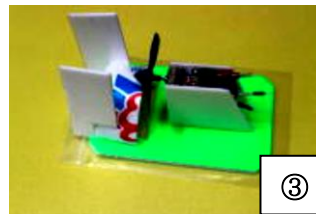
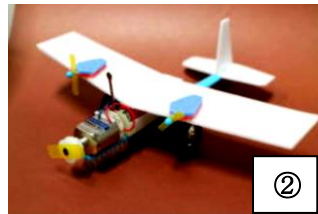
【復習に取り組む児童】



みんな大好き「ピタゴラそうち」 ～科学・模型工作教室～

三条市科学教育推進事業の一つとして「科学・模型工作教室」を年6回開催しています。毎回1テーマ、年間で6テーマを設けています。今年度は、次のテーマで行いました。

- ①「液体万華鏡を作ろう」
- ②「ブルブルモーターで動くおもちゃを作ろう」
- ③「充電して走るホバークラフトを作ろう」
- ④「おしゃべりマスケットを作ろう」
- ⑤「簡易プラネタリウムを作ろう」
- ⑥「みんなでピタゴラそうちを作って遊ぼう」



参加した子どもたちへのアンケートで、良かったものを選んでもらうと、⑥の「ピタゴラそうち」が断然トップにあげられました。これは、毎年のことです。子どもたちは、自由に考え、工夫することが大好きです。このことは、「ピタゴラそうち」作りに対する次の感想からもうかがえます。

【感想】「自分で工夫して、それが成功したときにうれしくて、楽しかった。」

来年度も、工作が大好きな子どもたちがたくさん工作教室に参加してくれることを期待します。

学級集団づくり研修

教育センターで、今年度も上越教育大学教職大学院教授の赤坂真二様から御講演をいただきました。

「指導力のある教師が知っていること」とのテーマで90分間お話をいただきました。学期末にもかかわらず、60名の参加者がありました。三条市の教職員の皆様が学級経営の重要性を感じていることの表れです。

落ち着いたクラスにはルールがあること、教師が方針を示すことが大切なことなど、児童・生徒の前に立つ教師として何をしなければならないのかについて多くのお話をいただきました。受講された皆様はたくさんのおみやげと明日へのパワーをいただいたことと思います。



【受講者アンケートの感想】

子どもとの信頼関係をしっかりと築けているかなと振り返ることができました。子どもとつながるために、何をしなければならないのか、もっと考えなくてはいけないと思いました。笑顔と感謝の気持ちを忘れずに、また、明日から子どもと向き合っていきたいです。（小学校教諭）

学級経営について見直す機会となりました。普段、どちらかというと子どもたちの意見を聞いていることが多く、そこにルールを示していなかったと反省しました。今後は明確にルールを設定して話をさせたいと思いました。（中学校教諭）



第2回 学校事務職員研修会

7月に行われた第1回「“つかさどる”学校事務職員の役割と共同実施の在り方」に続き、第2回学校事務職員研修会は「業務改善（働き方改革）とマネジメント」と題して行いました。

まず、働き方改革の動画を視聴した後、グループ討議で課題・改善点を出し合い、さらにその解決のためには共同実施で何ができるかファシリテーションでアイデアを出し合いました。

グループ発表では「共同実施単位、地域改善室単位では改革は難しい。意見を集約して、市教委との連携が不可欠。」「会議資料のペーパーレス化を実現したい。まずは学園会議などをペーパーレス化にできないか。」「地区で統一した『支払いWeek』を設定するのはどうか。現金をいつまでも学校に置かなくてよくなる。」などの意見が出されました。



発表に続いて、栄中央小学校樋熊敏文校長先生から、PTAも巻き込みながら自校で学校行事を見直した例をもとに、働き方改革を進める手順について御説明いただき、「働き方改革は焦らず、しかしチャンスを逃さずに」と具体的に御指導をいただきました。

参加者からは「実際に地域内で解決できそうな案が出された。」「研修で終わりではなくて、実際の活動に組み込めたらよい。」などの感想が寄せられました。

三条市新春小・中学校書初展を開催



市民の書写教育に対する関心を高め、児童生徒の書写技能の向上をめざして、1月18日（土）～20日（月）の3日間、市役所栄庁舎3階教育センターで「三条市新春小・中学校書初展」を開催しました。829点の出品をいただき、2597人の方が御来場されました。今年も新潟県書道教育研究会理事3名の先生方から審査をしていただきました。

御家族で来場し、自分の力作をバックに誇らしく記念撮影してもらっている姿や、真剣に時間をかけて丁寧に作品を鑑賞している姿が数多く見られました。

旧三条市時代から続くこの歴史深い書初展は、各校の実行委員、作業協力の先生方、高齢者有償ボランティアの方々の尽力によって開催・運営ができています。今年度も、準備から片付けの作業まで、様々な場面で御協力いただきました。心から御礼申し上げます。

2月8日（土）・9日（日）には、同じく栄庁舎教育センターで「三条市幼・小・中美術展」を開催します。準備・運営に御協力をよろしくお願いたします。

（文責：小中一貫教育推進課 武井）

＜お知らせ＞ 教科書センター（栄庁舎3階）には、次年度から使用する小学校の教科書があります。閲覧や借用ができますので足をお運びください。

